

主要産地における平成29年産水稻の収穫量及び作柄概況等について 第3報（10月31日現在）

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部（平成29年11月2日）

全 国 道 府 県	収穫量（主食用）					作況		品質概況等		参考			
	予想収穫量 (29年10月15日 現在)①	予想収穫量 (28年10月15日 現在)②	前年産 との比較 (①-②)	生産数量目標 との比較 (①-③)	自主的取組参 考値との比較 (①-④)	作況指数 (29年10月15日 現在)	前年産 (28年10月15日 現在) との比較	29年産水稻 うるち玄米 1等米比率 (29年9月末現在)	28年産水稻 うるち玄米 1等米比率 (28年9月末現在)	生産数量目標			平成29年産 自主的取組 参考値 ④
										平成29年産 ③	前年産 との比較	増減率	
	t	t	t	t	t			%	%	t	t	%	t
全国	7,309,000	7,498,000	▲ 189,000	▲ 41,000	▲ 21,000	100	▲ 3	80.8	83.9	7,350,000	▲ 80,000	▲ 1.1	7,330,000
北海道	552,200	545,500	6,700	16,531	17,988	103	1	93.5	89.1	535,669	▲ 5,831	▲ 1.1	534,212
青森	226,500	222,300	4,200	▲ 10,794	▲ 10,149	101	▲ 3	97.5	93.2	237,294	▲ 2,583	▲ 1.1	236,649
岩手	250,500	254,300	▲ 3,800	▲ 14,932	▲ 14,210	98	▲ 4	93.4	97.6	265,432	▲ 2,889	▲ 1.1	264,710
宮城	339,700	352,300	▲ 12,600	▲ 1,493	▲ 564	99	▲ 6	81.8	92.0	341,193	▲ 3,713	▲ 1.1	340,264
秋田	398,900	409,600	▲ 10,700	▲ 9,744	▲ 8,632	99	▲ 5	96.1	92.9	408,644	▲ 4,448	▲ 1.1	407,532
山形	337,300	345,300	▲ 8,000	140	1,057	100	▲ 3	95.8	95.7	337,160	▲ 3,668	▲ 1.1	336,243
福島	328,900	333,600	▲ 4,700	▲ 3,416	▲ 2,512	100	▲ 2	92.8	95.0	332,316	1,930	0.6	331,412
茨城	348,600	350,100	▲ 1,500	18,418	19,316	99	0	95.0	94.3	330,182	▲ 3,594	▲ 1.1	329,284
栃木	273,400	295,300	▲ 21,900	▲ 18,926	▲ 18,131	93	▲ 9	95.3	95.6	292,326	▲ 3,182	▲ 1.1	291,531
埼玉	151,700	154,100	▲ 2,400	3,653	4,056	101	0	81.4	76.8	148,047	▲ 1,612	▲ 1.1	147,644
千葉	289,400	295,900	▲ 6,500	48,161	48,818	100	▲ 2	95.2	91.7	241,239	▲ 2,625	▲ 1.1	240,582
新潟	527,600	589,700	▲ 62,100	17,416	18,804	96	▲ 12	86.4	86.6	510,184	▲ 12,533	▲ 2.4	508,796
富山	181,800	191,300	▲ 9,500	105	600	100	▲ 6	91.9	90.5	181,695	▲ 1,987	▲ 1.1	181,200
石川	120,400	123,900	▲ 3,500	▲ 596	▲ 267	99	▲ 5	88.8	89.5	120,996	▲ 1,317	▲ 1.1	120,667
福井	122,300	126,300	▲ 4,000	▲ 487	▲ 153	101	▲ 3	90.8	92.4	122,787	▲ 1,327	▲ 1.1	122,453
長野	196,900	197,800	▲ 900	7,033	7,550	101	0	98.2	99.0	189,867	▲ 2,066	▲ 1.1	189,350
滋賀	155,100	161,300	▲ 6,200	▲ 1,932	▲ 1,504	100	▲ 4	71.9	77.5	157,032	▲ 1,709	▲ 1.1	156,604
兵庫	176,200	177,400	▲ 1,200	▲ 396	85	100	0	62.7	68.3	176,596	▲ 1,922	▲ 1.1	176,115
岡山	158,300	156,200	2,100	3,128	3,550	103	1	78.3	78.7	155,172	▲ 1,689	▲ 1.1	154,750
広島	123,400	124,300	▲ 900	▲ 3,801	▲ 3,455	102	0	83.3	85.7	127,201	▲ 1,384	▲ 1.1	126,855
山口	100,700	101,400	▲ 700	▲ 5,743	▲ 5,453	103	1	76.5	76.8	106,443	272	0.3	106,153
愛媛	70,600	72,100	▲ 1,500	▲ 1,745	▲ 1,548	102	0	34.6	52.5	72,345	▲ 788	▲ 1.1	72,148
高知	54,100	53,100	1,000	5,097	5,230	103	3	17.6	20.5	49,003	▲ 534	▲ 1.1	48,870
福岡	178,700	177,400	1,300	118	603	102	2	17.5	12.2	178,582	▲ 1,944	▲ 1.1	178,097
熊本	169,700	171,000	▲ 1,300	▲ 15,577	▲ 15,073	102	0	22.2	40.1	185,277	▲ 2,016	▲ 1.1	184,773
宮崎	74,900	77,200	▲ 2,300	▲ 16,706	▲ 16,457	101	1	45.8	58.2	91,606	▲ 997	▲ 1.1	91,357
鹿児島	95,500	97,600	▲ 2,100	▲ 13,204	▲ 12,908	100	0	18.9	29.6	108,704	▲ 1,183	▲ 1.1	108,408

注：更新箇所について、前報より増加した箇所は二重下線で、減少した箇所は下線で表した。

収量構成要素、作柄及び品質等の概況	
道府県	自治体等公表資料（公表資料の抜粋）
北海道	<p>・10月15日現在における水稲の作柄は、「全もみ数は「平年並み」となった。これは、6月が低温・日照不足で経過したものの、7月には天候が回復したからである。」</p> <p>・登熟は「やや良」が見込まれる。これは、8月上旬の多照により開花・受精が良好となり稔実が平年を上回ったこと、粒の肥大及び充実は登熟期間を通じて日照時間が平年並み以上に確保されたことに加え、9月下旬の降雨により刈取りが遅れた結果、登熟期間が長く確保されたことから平年を上回るものと見込まれるためである。</p> <p>・この結果、作況指数103（10a当たり予想収量560kg）が見込まれる。 （北海道農政事務所 10月31日付）</p> <p>（全道）収穫作業は、断続的な降雨の影響により遅れて終了した（遅6日）。（北海道農政部 10月15日現在） （空知）収穫期からの断続的な降雨により、収穫作業は遅れて終了した（収穫終10月6日、遅5日）。（空知総合振興局 10月15日現在） （石狩）降雨の影響により収穫作業は大幅に遅れた（遅12日）。タンパクは低めとなっている。未熟粒・奇形粒の発生がやや見られる。 （石狩総合振興局 10月15日現在） （後志）収穫終は10月7日（遅6日）。（後志総合振興局 10月15日現在） （胆振）収穫は遅い（遅8日）。（胆振総合振興局 10月15日現在） （日高）断続的な降雨により、収穫作業は平年より遅れて終了した（遅8日）。青米、着色粒もみられる。（日高総合振興局 10月15日現在） （渡島）登熟は概ね平年並に推移（収穫終10月10日、遅6日）。（渡島総合振興局 10月15日現在） （檜山）収穫作業は平年より遅く、ほぼ終了（南部成熟：遅4日、北部成熟：遅7日）。（檜山振興局 10月15日現在） （上川）収穫作業は平年よりも遅れて終了した（収穫終：10月8日、遅6日）。（上川総合振興局 10月15日現在） （留萌）収穫作業は平年よりも遅れて収穫を終えた（遅5日）。（留萌振興局 10月15日現在） （オホーツク）収穫作業は遅れて終了した（収穫終10月6日、遅6日）。（オホーツク総合振興局 10月15日現在）</p>
青森	<p>・10月15日現在における水稲の10a当たり予想収量は596kgとなり、前年産に比べ8kgの減少が見込まれる。これは、全もみ数は平年に比べ「多い」となったものの、登熟が8月の低温・日照不足の影響により、「やや不良」と見込まれることによる。 （東北農政局 10月31日付）</p> <p>・10月20日現在の稲刈進捗は、県全体で95%となった。県全体の稲刈り終わりは10月20日で、平年に比べ6日遅かった。 （青森県「攻めの農林水産業」推進本部 10月23日付）</p>
岩手	<p>・10月15日現在における水稲の10a当たり予想収量は533kgとなり、前年産に比べ7kgの減少が見込まれる。これは、全もみ数は平年に比べ「やや多い」となったものの、登熟が8月の低温・日照不足や9月下旬～10月上旬の低温等の影響により、「やや不良」と見込まれることによる。 （東北農政局 10月31日付）</p> <p>・県の1等比率（9月30日現在）は、平成29年産米検査結果（農林水産省、平成29年10月25日発表）によると「うるち玄米」が93.4%、「もち玄米」が96.2%。2等以下に格付けされた主な理由は、①充実度（総検査数量に対する割合：2.5%）、②着色粒（カメムシ類）（同、1.4%）、③その他（同、1.0%）の順となっている。 （岩手県 10月26日付）</p> <p>・10月15日現在、県全体で67%の水田で刈取りが終了しており、平年と比較して25ポイント遅い刈取割合である。刈取始期は9月28日（平年差+3日）であり、刈取盛期は10月10日頃と推定され、平年よりも7日遅れた。 地帯別には、北上川上流が68%、北上川下流が67%、東部が73%、北部が54%となっており、特に東部および北部で刈取りが遅れている。 （岩手県 10月16日付）</p>
宮城	<p>・10月15日現在における水稲の10a当たり予想収量は535kgとなり、前年産に比べ19kgの減少が見込まれる。これは、全もみ数は平年に比べ「やや多い」となったものの、登熟が8月の低温・日照不足や9月下旬～10月上旬の低温等の影響により、「不良」と見込まれることによる。 （東北農政局 10月31日付）</p> <p>・10月23日現在における県内の水稲の刈取面積は61.566haであり、県全体の進行率は95.8%となっている。県全体の刈取終期は10月19日であり、平年に比べて8日遅くなった。 （宮城県 10月24日付）</p>
秋田	<p>・10月15日現在における水稲の10a当たり予想収量は574kgとなり、前年産に比べ17kgの減少が見込まれる。これは、全もみ数は平年に比べ「やや多い」となったものの、登熟が8月の低温・日照不足の影響により、「やや不良」と見込まれることによる。 （東北農政局 10月31日付）</p> <p>（山本）管内の刈取作業の進捗状況は、10月25日現在で98.6%であり、10月中には概ね終了するとみられる。（10月27日付） （秋田）管内の稲刈り作業は、10月21日で終期（平年10月9日）を迎えた。（10月27日付） （由利）水稲定点調査（2品種・移植5か所平均・新規の地点を除く）によると、水稲生育定点調査ほにおける刈り取量は579kg/10a（平年比97%）。10月25日現在における収穫作業の進捗率は98.1%（平年100%）となっている。（10月27日付） （雄勝）刈取作業が終期となった。（10月20日付） （秋田県農林政策課）</p>
山形	<p>・10月15日現在における水稲の10a当たり予想収量は598kgとなり、前年産に比べ10kgの減少が見込まれる。これは、全もみ数は平年に比べ「やや多い」となったものの、登熟が8月の低温・日照不足や10月上旬の日照不足等の影響により、「やや不良」と見込まれることによる。 （東北農政局 10月31日付）</p>

収量構成要素、作柄及び品質等の概況	
福島	<ul style="list-style-type: none"> 10月15日現在における水稲の10a当たり予想収量は549kgとなり、前年産に比べ6kgの減少が見込まれる。これは、全もみ数は平年に比べ「やや多い」となったものの、登熟が8月の低温・日照不足の影響により、「やや不良」と見込まれることによる。 (東北農政局 10月31日付)
茨城	<ul style="list-style-type: none"> 10月15日現在における水稲の作柄は、全もみ数は、穂数がやや多く、1穂当たりもみ数がやや少なくなったことから「平年並み」となった。 登熟は、出穂期以降、低温・日照不足がみられたものの、「平年並み」が見込まれる。 この結果、県の10a当たり予想収量は525kgで、前年産に比べ4kgの増加が見込まれる。また、作柄表示地帯別では、北部で521kg(前年産比5kg増加)、鹿行で528kg(同3kg増加)、南部で530kg(同7kg増加)、西部で521kg(同2kg減少)が見込まれる。 なお、農家等が使用しているふるい目幅(1.80mm)で選別された県の作況指数は99が見込まれ、作柄表示地帯別では、北部及び南部で99、鹿行で100、西部で98が見込まれる。 (関東農政局 10月31日付)
栃木	<ul style="list-style-type: none"> 10月15日現在における水稲の作柄は、全もみ数は、穂数が多くなったものの、1穂当たりもみ数がやや少なくなったことから「平年並み」となった。 登熟は、出穂期の降雨や出穂期以降の日照不足の影響が大きく「不良」が見込まれる。 この結果、県の10a当たり予想収量は510kgで、前年産に比べ41kgの減少が見込まれる。また、作柄表示地帯別では、北部で527kg(前年産比48kg減少)、中部で501kg(同44kg減少)、南部で494kg(同21kg減少)が見込まれる。 なお、農家等が使用しているふるい目幅(1.80mm)で選別された県の作況指数は93が見込まれ、作柄表示地帯別では、北部で93、中部で91、南部で97が見込まれる。 (関東農政局 10月31日付)
埼玉	<ul style="list-style-type: none"> 10月15日現在における水稲の作柄は、全もみ数は、穂数がやや多く、1穂当たりもみ数がやや少なくなったことから「やや多い」となった。 登熟は、「平年並み」が見込まれる。 この結果、県の10a当たり予想収量は494kgで、前年産並みが見込まれる。また、作柄表示地帯別では、東部で503kg(前年産比1kg減少)、西部で477kg(同3kg増加)が見込まれる。 なお、農家等が使用しているふるい目幅(1.80mm)で選別された県の作況指数は101が見込まれ、作柄表示地帯別では、東部で100、西部で102が見込まれる。 (関東農政局 10月31日付)
千葉	<ul style="list-style-type: none"> 10月15日現在における水稲の作柄は、全もみ数は、穂数がやや多く、1穂当たりもみ数が平年並みとなったことから「やや多い」となった。 登熟は、出穂期以降の日照不足の影響により「やや不良」が見込まれる。 この結果、県の10a当たり予想収量は543kgで、前年産に比べ6kgの減少が見込まれる。また、作柄表示地帯別では、京葉で521kg(前年産比7kg減少)、九十九里で560kg(同9kg減少)、南房総で527kg(同1kg減少)が見込まれる。 なお、農家等が使用しているふるい目幅(1.80mm)で選別された県の作況指数は100が見込まれ、作柄表示地帯別では、京葉で99、九十九里で100、南房総で102が見込まれる。 (関東農政局 10月31日付)
新潟	<ul style="list-style-type: none"> 10月15日現在における水稲の作柄は、全もみ数が6月上・中旬の低温等の影響により、「やや少ない」となった。登熟は全もみ数がやや少ないことによる補償作用があったものの、9月中旬以降の台風等の影響による倒伏があり「平年並み」となった。 10a当たり予想収量は526kgとなり、前年産に比べ55kgの減少が見込まれる。 (北陸農政局 10月31日付)
富山	<ul style="list-style-type: none"> 10月15日現在における水稲の作柄は、全もみ数が田圃期以降概ね高温多照で推移したことから「やや多い」となった。登熟は全もみ数がやや多いことから相反作用等により「やや不良」となった。 10a当たり予想収量は546kgとなり、前年産に比べ20kgの減少が見込まれる。 (北陸農政局 10月31日付)
石川	<ul style="list-style-type: none"> 10月15日現在における水稲の作柄は、全もみ数が6月上・中旬が低温で推移したものの6月下旬以降天候が回復したことから、「平年並み」となった。登熟は出穂期以降日照傾向で推移したものの、8月下旬以降多照で推移したため、「平年並み」となった。 10a当たり予想収量は519kgで、前年産に比べ15kgの減少が見込まれる。 (北陸農政局 10月31日付)
福井	<ul style="list-style-type: none"> 10月15日現在における水稲の作柄は、全もみ数が6月上・中旬が低温で推移したものの6月下旬以降天候が回復したことから、「平年並み」となった。登熟は出穂期以降日照傾向で推移したものの、8月下旬以降多照で推移したため、「平年並み」となった。 10a当たり予想収量は525kgとなり、前年産比10kgの減少が見込まれる。 (北陸農政局 10月31日付)

収量構成要素、作柄及び品質等の概況	
長野	<ul style="list-style-type: none"> ・10月15日現在における水稻の作柄は、全もみ数は、穂数及び1穂当たりもみ数が「<u>平年並み</u>」となったことから「<u>平年並み</u>」となった。 ・登熟は、全もみ数が平年並みに確保されていることから「<u>平年並み</u>」が見込まれる。 ・この結果、県の10a当たり予想収量は629kgで、前年産に比べ5kgの増加が見込まれる。また、作柄表示地帯別では、東信で649kg（前年産比21kg増加）、南信で641kg（同13kg増加）、中信で636kg（同2kg増加）、北信で581kg（同19kg減少）が見込まれる。 ・なお、農家等が使用しているふるい目幅（1.80mm）で選別された県の作況指数は101が見込まれ、作柄表示地帯別では、東信及び南信で102、中信及び北信で101が見込まれる。 （関東農政局 10月31日付）
滋賀	<ul style="list-style-type: none"> ・10月15日現在における水稻の作柄は、全もみ数は、穂数がやや多くなり、1穂当たりもみ数がやや少なくなったことから「<u>平年並み</u>」となった。 ・登熟は、出穂期以降、気温及び日照時間はおおむね平年並みで推移していることから「<u>平年並み</u>」が見込まれる。 ・これらのことから、10月15日現在の10a当たり予想収量は517kg（前年産に比べ17kg減少）が見込まれる。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は100となる見込み。 ・作柄表示地帯別の10a当たり予想収量は、湖南は526kg（前年産に比べ17kg減少）、湖北は498kg（同17kg減少）が見込まれる。 ・被害は、いもち病、紋枯病及びカメムシ等の発生がみられる。 （近畿農政局 10月31日付）
兵庫	<ul style="list-style-type: none"> ・10月15日現在における水稻の作柄は、全もみ数は、穂数がやや多く、1穂当たりもみ数がやや少なくなったことから「<u>平年並み</u>」となった。 ・登熟は、8月以降、気温・日照時間が平年を下回る時期があったものの、夜温が低く気温日較差が確保されていることから「<u>やや良</u>」が見込まれる。 ・これらのことから、10月15日現在の10a当たり予想収量は502kg（前年産に比べ1kg増加）が見込まれる。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は100となる見込み。 ・作柄表示地帯別の10a当たり予想収量は、県南は501kg（前年産に比べ1kg増加）、県北は501kg（同4kg増加）、淡路は510kg（同7kg減少）が見込まれる。 ・被害は、9月中旬以降、台風第18号や前線の停滞による降雨により倒伏が進行し、一部では被害程度の高いほ場がみられる。 （近畿農政局 10月31日付）
岡山	<ul style="list-style-type: none"> ・10月15日現在における水稻の作柄概況は、穂数は、中北部では5月中旬から6月中旬までの初期生育、分けつ期間がおおむね天候に恵まれたことから、<u>莖数が確保され、平年に比べて「多い」となった</u>。また、南部では7月中旬の高温多照により分けつが促進されたため「<u>やや多い</u>」となり、県平均では「<u>多い</u>」となった。 ・また、1穂当たりもみ数は、県平均、南部、中北部いずれも「<u>やや少ない</u>」となった。 ・これらのことから、全もみ数は中北部では「<u>やや多い</u>」、南部及び県平均では「<u>平年並み</u>」となった。 ・登熟は、中北部では、一時的な強い降雨による倒伏が見られるものの、登熟期間がおおむね天候に恵まれたことから、「<u>平年並み</u>」が見込まれる。また、南部では、10月中旬以降曇天があるものの、期間を通じておおむね天候に恵まれ、気温日較差が確保されたことにより「<u>やや良</u>」が見込まれ、県平均では「<u>やや良</u>」が見込まれる。 ・以上のことから、県の10a当たり予想収量は544kgとなり、前年産に比べ11kgの増加が見込まれる。作柄表示地帯別にみると、南部が552kg（前年産に比べ10kg増加）、中北部が530kg（同13kg増加）と見込まれる。 ・また、農家等が使用しているふるい目幅（中国地域は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は103（やや良）で、作柄表示地帯別にみると南部、中北部ともに103（やや良）と見込まれる。 （中国四国農政局 10月31日付）
広島	<ul style="list-style-type: none"> ・10月15日現在における水稻の作柄概況は、田植え後日照時間が長く、7月以降は高温傾向で推移したため分けつが促進され<u>莖数が多くなった</u>。これに伴い穂数は「<u>多い</u>」となった。また、1穂当たりもみ数は、幼穂が形成される7月に日照時間が平年を下回った時期があったことに加え、<u>穂数が多かった</u>ことから、「<u>少ない</u>」となった。この結果、全もみ数は「<u>平年並み</u>」となった。 ・登熟は、1穂当たりもみ数が少なかったことに加え、日照時間も平年を上回ったことから、「<u>やや良</u>」と見込まれる。 ・以上のことから、県の10a当たり予想収量は534kgとなり、前年産に比べ3kgの増加が見込まれる。作柄表示地帯別にみると、南部が537kg（前年産に比べ3kg増加）、北部が532kg（同2kg増加）と見込まれる。 ・また、農家等が使用しているふるい目幅（中国地域は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は102（やや良）で、作柄表示地帯別にみると南部、北部ともに102（やや良）と見込まれる。 （中国四国農政局 10月31日付）
山口	<ul style="list-style-type: none"> ・10月15日現在における水稻の作柄概況は、穂数は、田植期以降の好天により分けつが進み<u>莖数が多くなった</u>ことから「<u>多い</u>」となった。また、1穂当たりもみ数は、穂数が多かったことから相反作用が働き「<u>やや少ない</u>」となった。この結果、全もみ数は「<u>やや多い</u>」となった。 ・登熟は、8月は天候に恵まれたことから順調に進んだものの、9月以降は天候不順により日照時間が少なくなっていることから、全体では「<u>平年並み</u>」と見込まれる。 ・以上のことから、県の10a当たり予想収量は522kgとなり、前年産に比べ10kgの増加が見込まれる。作柄表示地帯別にみると、東部が497kg、西部が532kg、長北が521kgと見込まれる。 ・また、農家等が使用しているふるい目幅（中国地域は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は103（やや良）で、作柄表示地帯別にみると、東部及び長北が103（やや良）、西部が104（やや良）と見込まれる。 （中国四国農政局 10月31日付）
愛媛	<ul style="list-style-type: none"> ・10月15日現在における水稻の作柄概況は、穂数は、分けつ期の5月から7月末まで多照で推移したことから分けつが旺盛となり、「<u>やや多い</u>」となった。また、1穂当たりもみ数は、6月下旬から7月上旬が寡照となったことから、この期間に幼穂形成期を迎えたほ場ではやや少なくなったものの、それ以外の期間は多照であったことから全体的には、「<u>平年並み</u>」となった。この結果、全もみ数は「<u>平年並み</u>」となった。 ・登熟は、9月中旬以降寡照で推移したうえに気温日較差が小さい悪条件であったものの、9月に入って平均気温は平年より早く低下し、10月に入って上昇したため登熟に好適な気温が長く続いた。また、収穫期の降雨等の影響で登熟期間が長く確保でき登熟が順調に進んだことから、地帯別にばらつきはあるものの、全もみ数の「<u>やや多い</u>」東予と南予では「<u>やや不良</u>」、全もみ数が「<u>やや少ない</u>」中予は「<u>やや良</u>」を見込んだことから、全体としては「<u>平年並み</u>」が見込まれる。 ・以上のことから、県の10a当たり予想収量は508kgとなり、作柄が良かった前年産から増減なしが見込まれる。作柄表示地帯別にみると、東予が504kg（前年産に比べ7kg増加）、中予が538kg（同7kg減少）、南予が484kg（同4kg減少）が見込まれる。 ・また、農家等が使用しているふるい目幅（四国地域は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は102「<u>やや良</u>」で、作柄表示地帯別にみると東予が103「<u>やや良</u>」、中予が101「<u>平年並み</u>」、南予が102「<u>やや良</u>」が見込まれる。 （中国四国農政局 10月31日付）

収量構成要素、作柄及び品質等の概況	
高 知	<p><早期栽培の10月15日現在の作柄></p> <ul style="list-style-type: none"> ・穂数は、田植え後、高温多照で推移したため「多い」となった。また、1種当たりもみ数は、6月下旬以降日照不足となったため、「やや少ない」となった。この結果、全もみ数は「多い」となった。 ・登熟は、全もみ数が多いことや出穂期と収穫期に日照不足や台風の影響を受けたため、「やや不良」となった。 ・以上のことから、早期栽培の10a当たり予想収量は498kgとなり、前年産に比べ17kg増加した。また、農家が使用しているふるい目幅(四国地域は1.75mm)以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は104(やや良)となった。 <p><普通栽培の10月15日現在の作柄></p> <ul style="list-style-type: none"> ・穂数は、7月以降の気温が平年を上回ったため、「やや多い」となった。また、1種当たりもみ数は、7月中旬から8月上旬にかけて日照時間が平年を下回ったため、「やや少ない」となった。この結果、全もみ数は「平年並み」となった。 ・登熟は、9月中旬を除いて、日照時間や気温日較差がおおむね平年並みに推移したため、「平年並み」と見込まれる。 ・以上のことから、普通栽培の10a当たり予想収量は435kgとなり、前年産に比べ7kgの増加が見込まれる。また、作況指数は101(平年並み)と見込まれる。 <p><県及び作柄表示地帯別></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の10a当たり予想収量は470kgで、前年産に比べ12kgの増加が見込まれる。 ・作柄表示地帯別にみると、中東部が490kg(前年産に比べ14kg増加)、西部が440kg(同10kg増加)と見込まれる。 ・また、作況指数は103(やや良)と見込まれる。作柄表示地帯別にみると、中東部が103(やや良)、西部が102(やや良)と見込まれる。 <p>(中国四国農政局 10月31日付)</p>
福 岡	<p><福岡地帯の10月15日現在の作柄></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全もみ数は、穂数が1種当たりもみ数ともに「平年並み」となったことから、「平年並み」となった。 ・登熟は、早生種の多くで出穂以降、高温・多照に経過したことから、「やや良」が見込まれる。 ・このことから、10a当たり予想収量は482kg、作況指数は「102」が見込まれる。 <p><北東部地帯の10月15日現在の作柄></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全もみ数は、穂数が「やや多い」となり、1種当たりもみ数が「やや少ない」となったことから、「平年並み」となった。 ・登熟は、早生種の多くで出穂以降、高温・多照に経過したことから、「やや良」が見込まれる。 ・このことから、10a当たり予想収量は497kg、作況指数は「103」が見込まれる。 <p><筑後地帯の10月15日現在の作柄></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全もみ数は、穂数が「多い」となり、1種当たりもみ数が「平年並み」となったことから、「多い」となった。 ・登熟は、ヒノヒカリの登熟期前半は良好に経過していたものの、9月中旬以降日照不足で推移していることから、「やや不良」が見込まれる。 ・このことから、10a当たり予想収量は528kg、作況指数は「102」が見込まれる。 <p><被害状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・気象被害は、一部の地域で7月の九州北部豪雨による土砂流入や冠水等の発生、早期栽培や早生種の多くで高温障害による心白等の発生、普通栽培では日照不足による影響がみられる。 ・病害は、いもち病や紋枯病などがみられるが、平年に比べやや少ない発生となっている。虫害等は、トビイロウンカの発生が多くなっている。 ・総体的に被害は、平年並みの発生となっている。 <p>(九州農政局 10月31日付)</p>
熊 本	<p><県北地帯の10月15日現在の作柄></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全もみ数は、穂数が「多い」となり、1種当たりもみ数は「やや少ない」となったことから、「やや多い」となった。 ・登熟は、9月中旬以降日照不足で推移していることから、「やや不良」が見込まれる。 ・このことから、10a当たり予想収量は537kg、作況指数は「101」が見込まれる。 <p><阿蘇地帯の10月15日現在の作柄></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全もみ数は、穂数が「多い」となり、1種当たりもみ数は「少ない」となったことから、「やや多い」となった。 ・登熟は、コシヒカリ等の作付が多く、登熟期となる7月下旬以降の天候に恵まれたことから、「やや良」が見込まれる。 ・このことから、10a当たり予想収量は526kg、作況指数は「105」が見込まれる。 <p><県南地帯の10月15日現在の作柄></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全もみ数は、穂数が「多い」となり、1種当たりもみ数は「やや少ない」となったことから、「やや多い」となった。 ・登熟は、9月中旬以降日照不足で推移していることから、「やや不良」が見込まれる。 ・このことから、10a当たり予想収量は523kg、作況指数は「103」が見込まれる。 <p><天草地帯の10月15日現在の作柄></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全もみ数は、穂数が「やや多い」となり、1種当たりもみ数が「やや少ない」となったことから、「やや少ない」となった。 ・登熟は、早期栽培の登熟が良好であったことから、「やや良」が見込まれる。 ・このことから、10a当たり予想収量は451kg、作況指数は「103」が見込まれる。 <p><被害状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・気象被害は、一部降雨による倒伏の発生がみられる。 ・病害は、いもち病や紋枯病などがみられるが、平年に比べやや少ない発生となっている。虫害等は、早期栽培においてカメムシの発生がみられた。 ・一部地域ではトビイロウンカの発生がみられる。 ・総体的に被害は、平年に比べやや少ない発生となっている。 <p>(九州農政局 10月31日付)</p>

収量構成要素、作柄及び品質等の概況	
宮 崎	<p><早期栽培水稲の10月15日現在の作柄概況></p> <p>・作柄概況 全もみ数は、穂数が「やや多い」となったことから、平年に比べ「やや多い」となった。登熟は、7月上旬以降、おおむね天候に恵まれたことから、「やや良」となった。このことから、10a当たり収量は494kg、作況指数は「103」となった。</p> <p>・被害状況 気象被害は、8月上旬に接近した台風第5号の影響で、一部で倒伏の発生がみられた。病害は、いもち病や紋枯病などの発生が平年に比べやや少なくなった。虫害等は、カメムシの発生が多くみられた。総体的に被害は、平年に比べやや少ない発生となった。</p> <p><普通栽培水稲の10月15日現在の作柄概況></p> <p>・作柄概況 (広域沿海地帯) 全もみ数は、穂数が「平年並み」となったが、7月下旬から8月中旬にかけての日照不足等の影響で1穂当たりもみ数が「やや少ない」となったことから、「やや少ない」となった。登熟は、全もみ数が「やや少ない」ことによる粒の肥大を見込んでいたものの、9月中旬以降日照不足で推移していることから、「平年並み」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は467kg、作況指数は「99」が見込まれる。</p> <p>(広域霧島地帯) 全もみ数は、穂数が「平年並み」となったが、7月下旬から8月中旬にかけての日照不足等の影響で1穂当たりもみ数が「やや少ない」となったことから、「やや少ない」となった。登熟は、全もみ数が「やや少ない」ことによる粒の肥大を見込んでいたものの、9月中旬以降日照不足で推移していることから、「平年並み」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は525kg、作況指数は「99」が見込まれる。</p> <p>(西北山間地帯) 全もみ数は、穂数が「やや少ない」となり、7月下旬から8月中旬にかけての日照不足等の影響で1穂当たりもみ数が「やや少ない」となったことから、「やや少ない」となった。登熟は、9月中旬以降日照不足で推移しているもの、全もみ数が「やや少ない」ことによる補償作用と、出穂期から登熟盛期にかけて高温・多照に経過したことから、「やや良」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は479kg、作況指数は「100」が見込まれる。</p> <p>以上の結果、県の普通栽培水稲の10a当たり予想収量は503kg、作況指数は「99」が見込まれる。</p> <p>・被害状況 気象被害は、台風第5号による葉先裂傷等がみられた。また、台風第18号による土砂流入、冠水、倒伏の発生がみられる。病害は、いもち病や紋枯病の発生は平年に比べやや少ない発生となっている。虫害等は、一部の地域で、トビイロウンカやカメムシの発生が多くなっている。総体的に被害は、平年並みとなっている。</p> <p>(九州農政局 10月31日付)</p>
鹿 児 島	<p><早期栽培水稲の10月15日現在の作柄概況></p> <p>・作柄概況 全もみ数は、穂数、1穂当たりもみ数ともに「やや多い」となったことから、「多い」となった。登熟は、降雨等により一部地域で不稔もみが発生したものの、登熟期全般が高温・多照に経過し粒の肥大や充実が良好であったことから、「やや良」となった。このことから、鹿児島県の早期栽培水稲の10a当たり収量は472kg、作況指数は「107」となった。</p> <p>・被害状況 気象被害は、台風第5号の影響は軽微なものとなった。病害は、いもち病や紋枯病などの発生が平年に比べ少なくなった。虫害等は、カメムシの発生がみられた。総体的に被害は、平年に比べ少ない発生となった。</p> <p><普通栽培水稲の10月15日現在の作柄概況></p> <p>・作柄概況 (薩摩半島地帯) 全もみ数は、1穂当たりもみ数が「やや少ない」となったが、穂数が「多い」ことから、「多い」となった。登熟は、全もみ数が多いことによる相反作用と9月中旬以降日照不足で推移していることから、「やや不良」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は486kg、作況指数は「101」が見込まれる。</p> <p>(出水薩摩地帯) 全もみ数は、1穂当たりもみ数が「平年並み」となったが、穂数が「多い」となったことから、「多い」となった。登熟は、全もみ数が多いことによる相反作用と9月中旬以降日照不足で推移していることから、「やや不良」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は507kg、作況指数は「101」が見込まれる。</p> <p>(伊佐始良地帯) 全もみ数は、穂数が「やや多い」となったが、1穂当たりもみ数が「やや少ない」ことから、「やや少ない」となった。登熟は、9月中旬以降日照不足で推移していることから、「やや不良」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は496kg、作況指数は「97」が見込まれる。</p> <p>(大隅半島地帯) 全もみ数は、穂数が「平年並み」となり、1穂当たりもみ数は「少ない」となったことから、「少ない」となった。登熟は、9月中旬以降日照不足で推移しているもの、全もみ数が少ないことによる補償作用から、「平年並み」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は458kg、作況指数は「94」が見込まれる。</p> <p>以上の結果、県の普通栽培水稲の10a当たり予想収量は491kg、作況指数は「98」が見込まれる。</p> <p><被害状況> 気象被害は、台風第5号による葉先裂傷等がみられた。また、台風第18号による倒伏の発生がみられる。病害は、いもち病の発生は平年並みの発生となっている。虫害等は、トビイロウンカやカメムシの発生が多くなっている。総体的に被害は平年並みとなっている。</p> <p>(九州農政局 10月31日付)</p>

注1：自治体等公表資料については地方自治体及び出先機関等が公表している資料から抜粋、日付は公表日。

注2：農政局が公表している資料の「前年度比」は、確定値との比較となっている。

注3：更新箇所については下線で表した。

参考資料

平成29年産水稻の作付面積及び予想収穫量(10月15日現在)(農林水産省、農林水産省農政局、北海道農政事務所)、
平成28年産水稻の作付面積及び予想収穫量(10月15日現在)(農林水産省、農林水産省農政局、北海道農政事務所)、
平成29年産米の農産物検査結果(速報値/平成29年9月30日現在)(農林水産省)、
平成28年産米の農産物検査結果(速報値/平成28年9月30日現在)(農林水産省)、
平成29年産米の都道府県別の生産数量目標等(農林水産省)、
平成28年産米の都道府県別の生産数量目標等(農林水産省)、

農作物の生育状況 10月15日現在(北海道 10月20日)、農作物生育状況 10月15日現在(北海道空知総合振興局 10月20日)、
農作物の生育状況 10月15日現在(北海道石狩振興局 10月20日)、農作物の生育状況 10月15日現在(北海道後志総合振興局 10月20日)、
農作物の生育状況 10月15日現在(北海道胆振総合振興局 10月20日)、農作物の生育状況 10月15日現在(北海道日高振興局 10月20日)、
農作物の生育状況 10月15日現在(北海道渡島総合振興局 10月20日)、農作物の生育状況 10月15日現在(北海道檜山振興局 10月20日)、
農作物の生育状況 10月15日現在(北海道上川総合振興局 10月20日)、農作物生育状況調査の概要 10月15日現在(北海道留萌振興局 10月20日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況 10月15日現在(北海道オホーツク総合振興局 10月20日)、
稲刈進捗状況(10月20日現在)(青森県 10月23日)、
農作物技術情報第8号水稻(岩手県農林水産部 10月26日)、
水稻の刈取状況(10月15日現在概況速報)について(岩手県農林水産部 10月16日)、
平成29年産水稻の刈取状況について(10月23日現在)(宮城県農林水産部農産園芸環境課 10月24日)、
生育状況の情報(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/> 10月27日)、